

令和 6 年度 目的事業報告書

1. 事業名	落語と絵本のアニューアーレ～三題噺王決定戦～
2. 事業内容	上方落語協会所属の若手噺家 13 名が披露する新作三題噺から着想を得た「はなし画」により、絵本の夢を追いかけるコミュニティのイベント。1st ラウンドは 9/23 大淀コミュニティセンターで開催、多世代約 300 名の聴衆が訪れ大いに盛り上がり決勝進出 6 名の落語家を選んだ。「はなし画」は審査員によるリモート審査を実施。全 36 名・144 作品から 6 名・24 作品を選定、それら優秀作品は「記念画集」に収めた。翌 1/31 には天満天神繁昌亭で「三題噺王決定戦」が開催され、三題噺王を決定し表彰するとともに、「はなし画」作者の表彰式も同時開催した。
3. 実施日 実施場所	○令和 6 年 9 月 23 日(月) 「落語と絵本のアニューアーレ～三題噺王 1st ラウンド～」 (実施場所：大淀コミュニティセンター ホール) ○令和 7 年 1 月 30 日(金)「落語と絵本のアニューアーレ～三題噺王決定戦～」 (実施場所：天満天神繁盛亭)
4. 来場人数	延べ約 300 名
5. 出演・審査・協力など (敬称略)	□公益社団法人上方落語協会会長・笑福亭仁智 □桂咲之輔/笑福亭呂好/月亭天使/桂鞠輔/桂紋四郎/桂福枝/桂三実/露の新幸/桂笑金/桂雪鹿/桂源太/笑福亭喬龍/月亭柳正 □笑福亭仁智/大阪大学名誉教授・橋爪節也/大阪大学総合学術博物館副館長・船越幹央/大阪大学総合学術博物館研究支援推進員・波瀬山祥子/株式会社偕成社販売部取締役特販部長・西川稔/関西テレビ放送株式会社・水戸徹/天満天神繁昌亭マネージャー・關英栄 □大道意匠研究舎/株式会社シンカ・コミュニケーションズ
6. 次年度の 展望	「はなし画」の応募者において、コミュニティからの参加を募る工夫をさらに重ね、コミュニティ・イベントとしての実績を高めていく。 なお、「原画展」ではホームページを活用した公開スタイルの方がよりイベントへの興味を深めるきっかけになり得るとの考え方もあるため、SNS や Web サイトを活用した展開など、方法や課題を総合的に検証し、次年度開催に向け検討を重ねていく。

添付資料① 当日写真

＜「落語と絵本のアンユアーレ～三題噺王1st ラウンド～」(9月23日@大淀コミュニティセンター)＞





<「落語と絵本のアンニアーレ〜三題噺王 決勝ラウンド〜」(1月31日@天満天神繁昌亭)>





<「はなし画」表彰式（1月31日@天満天神繁盛亭）>



公式 HP▼



落語と絵本のアニュアルレ
三題噺王決定戦
～ 1st ラウンド～



出演

桂 咲之輔 / 笑福亭 呂好 / 月亭 天使 / 桂 鞠輔 / 桂 紋四郎 / 桂 福枝 / 桂 三実
露の新幸 / 桂 笑金 / 桂 雪鹿 / 桂 源太 / 笑福亭 喬龍 / 月亭 柳正
【総合プロデューサー】笑福亭 仁智

2024 年

9月23日 (月)

13:00 ~ 16:00 ごろ (12:30 開場)

会場：大淀コミュニティセンター
(大阪市北区本庄東3丁目8-2)

観覧無料！ ご観覧にはお申し込みが必要です。下記いずれかの方法で必ず事前にお申し込みください。

①WEB でお申込み



左記の二次元バーコードより、
手順に沿ってお申し込みください。
＜お申込みページ＞
<https://teket.jp/4078/35647>

WEB 申込受付期間：7月29日0:00～9月23日0:00

②往復はがきでお申込み

氏名、ご住所をご記入のうえ下記宛先までお送りください。
同行者全員の情報を記載ください。(1枚につき4名まで)

＜宛先＞〒541-0055

大阪市中央区船場中央1丁目3番2-302
9/23 落語会観覧希望 係

※9月2日必着

※未就学児のご入場はお断りしております。※定員に達し次第、受付を終了します。

主催：(一財) 大阪市コミュニティ協会 / 共催：(公社) 上方落語協会 / 天満天神繁昌亭
協力：大阪大学総合学術博物館

【お問合せ先】info@annuale.net ※メールでのみ受付します。

2024年9月23日開催の「1st ラウンド」
 決勝進出者による**決勝戦**！
 はなし画コンテスト表彰式も同時に開催！出演順は当日抽選にて決定します。



落語と絵本の**ア**ニニューアーレ



二題 決定戦 噺王

決勝ラウンド

【総合プロデューサー】上方落語協会会長 笑福亭仁智

2025年

1月31日(金)

18:00 ~ (17:30 開場)

会場：天満天神繁昌亭 (大阪市北区天神橋 2-1-34)

※未就学児童の入場はご遠慮ください。

●天満天神繁昌亭 (大阪市北区天神橋2-1-34)



●大阪メトロ谷町線／堺筋線「南森町駅」④-⑥出口
 ●JR東西線「大阪天満宮駅」⑦番出口 各徒歩3分

前売¥2,500
当日¥3,000

【全席指定・税込】

【前売券のお求めは】

チケットぴあ Pコード 597-700

(セブンイレブン・t.pia.jp)

繁昌亭チケット窓口 (11:00-19:00 窓口販売のみ)

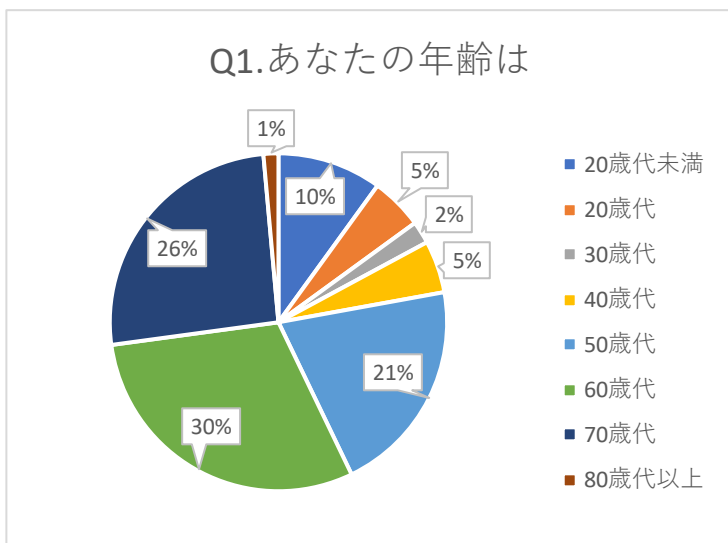
※2024年12月1日(日)より発売

チケット・会場に関するお問合せ：天満天神繁昌亭 ☎06-6352-4874

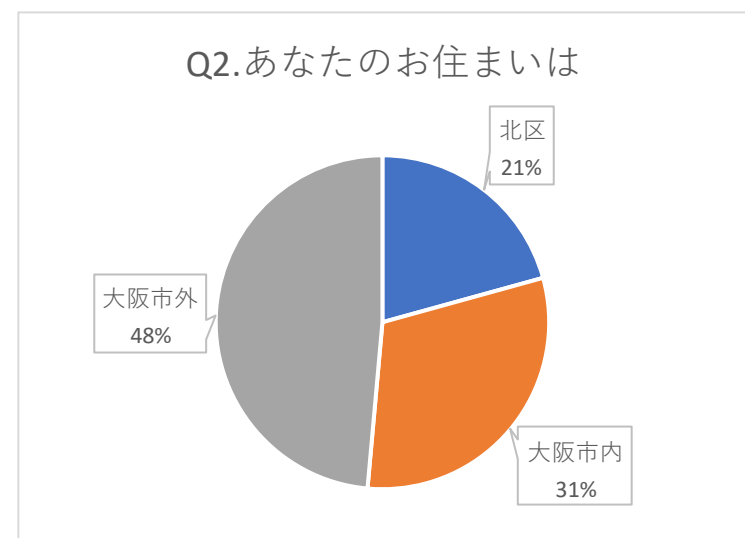
主催：(公社) 上方落語協会・天満天神繁昌亭 共催：(一財) 大阪市コミュニティ協会 協力：大阪大学総合学術博物館

添付資料③ 落語と絵本のアンユアーレ 2024 三題噺王決定戦 1st ラウンド アンケート集計
落語と絵本のアンユアーレ

Q1.あなたの年齢は		
1	20歳代未満	14
2	20歳代	7
3	30歳代	3
4	40歳代	7
5	50歳代	29
6	60歳代	42
7	70歳代	36
8	80歳代以上	2
合計		140

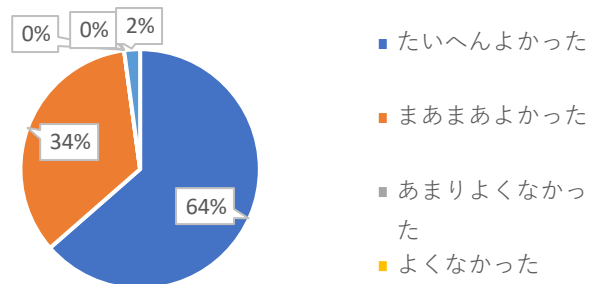


Q2.あなたのお住まいは		
1	北区	29
2	住之江	1
3	東淀川	1
4	都島	5
5	阿倍野	5
6	淀川	2
7	鶴見	2
8	東成	0
9	西淀川	0
10	福島	1
11	西	0
12	東住吉	1
13	生野	3
14	中央	7
15	浪速	0
16	西成	0
17	此花	1
18	大正	1
大阪市内		43
19	大阪市外	68
合計		140



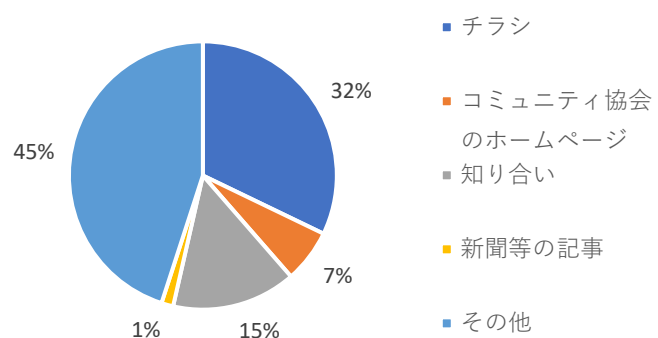
Q3.本事業をご覧になったご感想は		
1	たいへんよかった	89
2	まあまあよかった	48
3	あまりよくなかった	0
4	よくなかった	0
5	その他	3
	合計	140

Q3.本事業をご覧になったご感想は



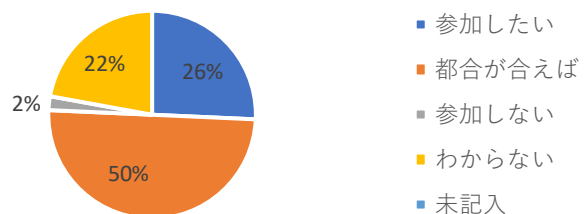
Q4.本事業を何でお知りになりましたか		
1	チラシ	45
2	コミュニティ協会のホームページ	9
3	知り合い	21
4	新聞等の記事	2
5	その他	63
	合計	140

Q4.本事業を何でお知りになりましたか



Q5.三題噺王決定戦に参加したいですか		
1	参加したい	36
2	都合が合えば	70
3	参加しない	3
4	わからない	31
	合計	140

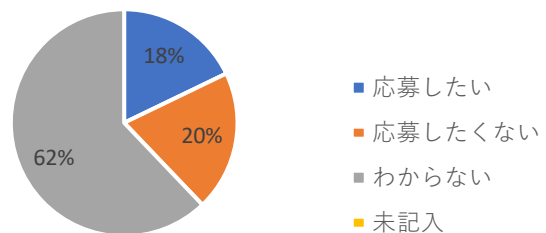
Q5.三題噺王決定戦に参加したいですか



未記入

Q6.はなし画に応募したいと思いますか		
1	応募したい	25
2	応募したくない	28
3	わからない	87
	合計	140

Q6.はなし画に応募したいと思いますか



未記入

0

添付資料④ 「落語と絵本のアニュアルレ」（9月23日）アンケートご意見欄

- はじめて落語を聞きました。とてもおもしろかったです。
- はじめて、落語を生で見れておもしろかったです。
- 自分でも審査をしてみたが真剣に悩みました。
- また来年も来たいです。
- 落語ってどんなのか知らなかったけどおもしろかった。お年寄りの人向けのイメージだったけど10代の私でも友だちと一緒に楽しめました。
- 大満足でした。
- 今年の方がレベルが高いと感じました。
- 会場が少し寒かった。

1. 事業名	こどもまなびフェス
2. 事業内容	『未来を担う子どもの感性を磨く！』その担い手の一つになる徐行として開催し、子ども本来の感性を再び呼び戻すことを目的として実施した。 地域・住民・友だちとのコミュニケーションを図るきっかけとなるイベントとして、「将棋」「子どもフリーマーケット」「電車のおもちゃを動かそう」「書いた絵を缶バッジ」の4つのコンテンツを開催。
3. 実施日 実施場所	令和6年12月23日(木) 午後1時～午後4時 北区民センター・ホール
4. 来場人数	延べ 100人
5. 協力	・ さくら将棋部 竹田さおり ・ 荒内奏斗
6. 次年度の 展望	地域の学校にチラシ配架を依頼し、SNS やネット媒体でも告知を行いました。将棋教室は枠を増やし、多くの参加者を見込めました。一方、フリーマーケットは出展者は多かったものの来場者が少なかったため、今後は周知を強化し、開催の認知度向上を図る予定です。

添付資料⑤ 当日写真



Christmas

こどもまなびフェス

こどもまなびフェスとは、仕事の大切さ、お金の大切さ、物の大切さを1日通して楽しく学ぶことを目的としています

日時
2024年
12月22日(日)
13:00-16:00

場所
大阪市立北区民センター

～ホール～
お金の大切さを学ぶ
こどもフリーマーケット

～ホール～
作る楽しさを学ぶ
自分で書いた絵を
缶バッチに!
1回 200円
個数限定

～第4会議室～
遊びから学ぶ
電車のおもちゃを
無線・リモコンで
実際に動かしてみよう
1回 100円(定員4名)
8分間入替方式
見学は無料

～和室～
少し先を学ぶ
将棋
和室の部屋で
将棋をしてみよう
各回こども10名 1回 300円
当日空きがございましたら
受付を致します

一般財団法人 大阪市コミュニティ協会
北区支部協議会

お申込み・お問い合わせは **06-6372-0213** まで

1. 事業名	キタのまちのニュースレター＜北区ふるさと・地域間交流＞
2. 事業内容	商業施設の更新やホテル増などによる、まちの様変わりや「まちの記憶」に着眼し、特にマンション居住者が9割を超える北区の現状や今後も増加する都心居住者らに「新しいコミュニティ」へのヒントになり得るような「たのしみ」や「行動をともにする地区生活者の話」などを中心に構成したニュースレターを発行した。各号では地域コミュニティに関する様々な分野の専門家に執筆を依頼し、北区の魅力を多面的に発信した。また、区内ばかりではなく、北区に立地する道県事務所など広域交流が可能な取材先も取り込んだ。 さらに、新たにコミュニティに参入したいと考えている方が地域の情報を得られるように多くの方に届けるキタの情報を発信した。
3. 発行	No.12：2024（令和6）年春・夏号 No.13：2024（令和6）年夏・秋号 No.14：2024（令和6）年秋・冬号 No.15：2025（令和7）年冬・春号
4. 発行部数	各 18,000部
5. 編集・発行	北区民センター・大淀コミュニティセンター・都市コミュニティ研究室
6. 次年度の展望	北区民センターや大淀コミュニティセンターの利用者に対してのインタビューを行う。実際の利用者の声を届け、身近な場所の活動の内容を知ってもらう。 それに加えて、北区民センターや大淀コミュニティセンターの事業などの情報を発信・周知するとともに、地域コミュニティに関する様々な分野の方やご利用頂いた地域団体に出稿協力を依頼し、北区に寄り添い北区の魅力を発信し続ける。 そして、地域住民の皆様は北区民センターや大淀コミュニティセンターが「気軽に」・「いつでも」・「誰とでも」・「地域コミュニティの場」として利用頂けるような利用促進を図る。

KITA NO MACHI NO NEWS LETTER

No.12 | 2024
春・夏号



会館インタビュー

こども和太鼓チーム「雅っ鼓」

本部長：内田 邦子

北区民カーニバルで例年披露されている和太鼓演奏はご存知でしょうか。通う学校や学年も異なる北区の小学生らによる、一体感のある演奏が会場を盛り上げるイベントです。今回はその講師を務めながら、大人チーム『和太鼓雅』と子どもチーム『雅っ鼓』のトップを務める内田さんにお話を伺います。

インタビューア：内田さんはどのような経緯で和太鼓を始められたのでしょうか

内田さん：「和太鼓に触れたのは、自分の子どもが通っていた保育園のPTA行事が一番最初なんです。それが楽しくて親同士で集まろうという話になり「和太鼓雅」ができました」

イ：ではそこから独学で勉強されたんですね。

内：「初めての何年かは公演をみたり、習いにいったりしていました。そうやって活動するうちに、連れてた子どもたちが「太鼓をしたい」と言うようになり「雅っ鼓」ができました」

イ：その後は寝屋川市を拠点にしていたとのことですが、北区で活動するきっかけはなんでしょうか

内：「別の地域のお祭りで演奏していたとき、見ていた北区の人から『うちでもやってほしい』と言われたんです。それから北区民カーニバルに参加したら、「雅っ鼓」みたいな子どもチームに入りたいと思う人がたくさんいたので、「雅っ鼓」の北支部ができました」

イ：今の小学生を募集する形は、その時にできたんですね

内：「それから18年くらい参加してますけど、区民カーニバルで演奏した子は、その後「雅っ鼓」に入る人も多いですね」

イ：区民カーニバルと「雅っ鼓」さんでは練習方法にどのような違いがあるのでしょうか

内：「区民カーニバルの講習会では、とにかくリズムを覚えてもらいます。ドンドコとかリズムを口で言ってから叩くんです。子どもは吸収が早いので、みんなで練習すると、周りに合わせて叩くので、自然と叩けるようになります。「雅っ鼓」では基礎打ちを

大事にします。基礎ができたら大抵のことはできるから重点的にやりますね」

イ：なるほど。

内：「あとは礼儀作法も教えますね。「雅っ鼓」でイベント参加をするときは、チームのハッピーや衣装を来て会場に行くので、みんな名前を背負っていますからね」

イ：確かに和太鼓の演奏をみると動きを揃えたり、立ち位置が入れ替わったり、チームワークが大切なように感じます。そうして連帯感を身に着けていくんですね。

内：「そうですね。カーニバルの講習会でも得意な子と苦手な子いますが、みんなで一緒にやっていると真似ができて、上の子が下の子を面倒見てくれたりして、和太鼓のいい面だなと思います」

イ：通う学校や学年が違っても、太鼓で繋がれるんですね。すごいことだと思います。それでは最後に読者へメッセージをお願いします。

内：「親御さんは、子どもが興味をもって演奏できる機会にはぜひ叩かせてあげてください。小学生のころにやったなという体験だけでもいいんです。日本の伝統楽器なんですね。海外に行って「日本にはどんなものがある？」という質問にも「和太鼓がある」って言えますからね(笑)区民カーニバルは初心者でも大丈夫なので、ぜひ参加してみてください」



こども和太鼓チーム「雅っ鼓」北支部

- 対 象：小・中学生（未就学児は要相談）
- 場 所：大淀コミュニティセンター
- 曜日・時間：木曜 18時～19時30分（月2～3回）
- 参加に関するお問い合わせ：雅っ鼓 本部
TEL：090-8752-0336（内田） FAX：072-829-4461
Mail：npo.gamu@nifty.com

■バックナンバーの確認→「キタのまちのニュースレター ちょっとだけプラス」で検索！

“アロハ”に込められた意味



3/24(日)北区民センターで『マナビパフラカンファレンス』が開催されました。フラをきっかけに新たな出会いや発見を生み出す学びの場として開かれ、今回で第3回を迎えます。今年は4つのフラ教室が登場し、“ALOHA(アロハ)”を多様に表現したフラを披露。最後はディズニー映画『リロ・アンド・スティッチ』に登場した楽曲『アロハ・エ・コモ・マイ』を観客と踊りフィナーレを締めくくりました。

本イベントで注目すべき点は“ALOHA”の意味の豊富さでした。“こんにちは”や“こんばんは”といった挨拶の他に、“愛”や“祈り”などの意味もあるそうで、ハワイ語の辞書には30以上の英訳があるとか。その多種多様な意味を、踊りの中でさまざまな形に表しており、フラの表現力の高さに驚かされます。

またハワイ州法では、“アロハスピリット”なるものが定義されており、ALOHAの5つのアルファベットがそれぞれの価値観を表しているといえます。

- A akahai 思いやり、優しさ
- L lōkahi 調和、ハーモニー
- O 'olu'olu 心地よさ
- H ha'aha'a 謙虚さ
- A ahonui 忍耐強さ



これらは自身の平穏を保つことにも繋がり、それによって相手を尊重し、思いやることができるということを伝えているそうです。人と人とのコミュニケーションについての哲学的な考えと、華やかなフラのパフォーマンスが気軽に楽しめるイベント。次回はぜひ参加して、その一部を感じ取ってみてください。



当日の様子は
こちらから



X (旧Twitter)



Instagram

移ろう風景・かわらぬ美

キタのまちのニュースレター 編集室

美術表現に現代アートというジャンルがあるらしい。それが、老若男女分け隔てなく人気を博し、万国共通のアートな世界を醸し出したりすると、まち全体に楽しみの機運が巻き起こり、イベントとして、地域全体が潤う。

ただし、人気作家にアート制作を依頼すれば、それ相当のコストがかかるし、逆に、コストを抑え、モノマネ的作品に頼ってしまうと「いったいこれは何でっか?」と、スルーされてしまう。……なかなか難しい。

アートの世界に限らず、時代と時代の境目では、必要とされる対象物が大きく変化する。で、そのことが一気呵成に進んでしまうと「まちの景色」を一変させることがある。

だから!……移ろう時代に堂々と、その存在を語りかけてくれる表象物には頭が下がる。



写真は北区中之島「なにわ橋」の鋳物製の欄干。このデザイン性が素晴らしい。大阪市章、みおつくし(滞標)がモチーフ。滞標は水辺の安全航行の目印で、大阪繁栄の表象物でもある。言ってみれば、必要とされてきた目印が機能化され、ま〜るくデザインされ、まちの風景に育つ。おまけに、一つは斜めになり、自分から階段に寄り添う。

どことなくユーモラスで、それでいて美しい。大阪ど真ん中、中之島に架かる難波橋が美しい。

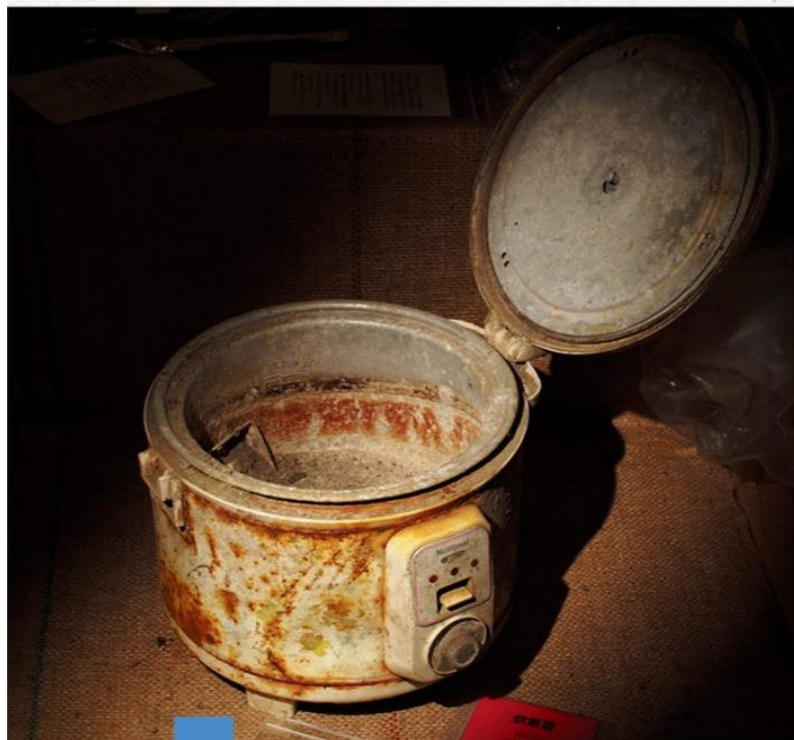


キタ歩き日本旅



宮城県の巻

全国約半数の道府県事務所が北区「大阪駅前ビル」に！旅の玄関口みたい！！それが「キタ歩き日本旅」です。



見てきたように

完成した中之島美術館が大人気。そこで……宮城県大阪事務所を訪ね「みやぎ旅まっぷ」を手にし、宮城県では「どんな美術館(および博物館)」があるか？……この全県マップで美術館の存在を確かめた。と、宮城県北部・気仙沼市に気になる美術館発見！その名はリアス・アーク美術館。

ビックリどっきり、それでいて「人肌の作風」で有名な石山修研究室が設計を手掛け、平成6(1994)年10月の開館だそう。(阪神淡路大震災の前年)

やっておられることを公式ホームページで見て、「目が点」になった。以下は、この美術館の許可を得、その志のごく一部を抜粋させていただいた。(写真展示・同)

当館では震災発生と同時に独自の調査記録活動を開始し、2011年3月23日以降は、気仙沼市、南三陸町の震災被害記録、調査担当という特命を受け、2012年の12月31日までその任に当たりました。この活動の目的は単に震災被害を記録することではなく、これまで築き上げられてきた地域の最後の姿を地域再生の為に記録することでした。

一般に災害の記録は「どう壊れたのか」という視点で行われますが、当館では「まず、何が壊れたの

きかは便郵



平成元年ころに買った炊飯器なの。じいちゃん、ばあちゃん、わたし、お父さんと息子二人に娘一人の7人だもの。だから8合炊き買ったの。そんなでも足りないくらいでね。

今はね、お父さんと二人だけど、お盆とお正月は子供たち、孫連れて帰ってくるから、やっぱり8合炊きは必要なの。

普段は二人分だけど、夜の方まで朝に6合、まとめて炊くの。

裏の竹やぶで炊飯器見つけて、フタ開けてみたら、真っ黒いヘドロが詰まっていたの。それ捨てたらね、一緒に真っ白いごはんが出てきたのね・・・夜の分、残してたの・・・涙出たよ。

2011. 3. 11～

か」そして「なぜそれは壊れなければならなかったのか」ということに主眼を置いて記録、資料収集活動を行いました。

現在、被災地の人々は震災とその前後の「記録」や「記憶」を残したいと願ひ、顕在化させるための試みを重ねています。「客観的事実としての記録」は、膨大な視聴覚資料として既に存在しています。しかし「主観的事実としての記憶」は未だに人々の体内に在って表現されたものはごく一部と考えられます。

当館では「東日本大震災の記録と津波の災害史」常設展示を、未だ語られていない震災の記憶を引き出すための「呼び水」と位置付けています。単に資料を見る場としてではなく、自分自身の「震災の記憶」を呼び起こし、語り合う場にして頂けることを期待しています。

確かに、現象としての天変地異を訴えかける優れた博物館はこれまでもあり、関西にもある。ところが、人の心象風景、その記憶の「呼び水となる！」……それを「言い切る」美術館があったとは！……見てきたわけではないが、見てきたような感動を受けた。ぜひ、まずは、リアス・アーク美術館のホームページを見てみてください。

宮城県大阪事務所

北区梅田1-3-1-900 大阪駅前第1ビル9階 ☎06-6341-7905(開館 平日9時～17時/土日祝・年末年始は休み)

浪花百景歳時記

大阪大学総合学術博物館
研究支援推進員

波瀬山祥子

季節を問わず世界一、アツい場所！

第五景 「堂じま米市」 歌川国員画

上方落語「米あげ箆」でも知られる堂島米市場の賑わいを、大阪らしいユーモアとエスプリに富んだ構図にまとめます。足下に落ちた扇子と煙管入れは、歌舞伎十八番「助六」の名場面に見立てたとする説が最近提唱されました。

道行ナビゲーター 大阪大学名誉教授 橋爪節也



天下の台所と謳われた大坂のシンボル・堂島米市を描きます。そう、前回のコラム「大江ばしより鍋しま風景」で、梅柄のパッチをはいて大江橋を渡る米商人が向かう先です。押しあいへしあいする商人の足元だけを描いて、米市の血気盛んな競の様子を伝えます。足首まであるつなぎのパッチの男や、足袋のみの男、衣服の柄や色もさまざま。「ああっ！しまった……扇子が！」と足元に落ちた扇に手が伸び、煙管入れも転がっています。一息ついて再び競に参入しようと石段を登る一人は着崩れして片腕を出し、一人は手ぬぐいを肩にかけ顎を突き出し、競り市を睨んで気合いを入れます。

大坂の米市は、淀屋橋南詰にあつた豪商・淀屋の店先に商人が集まったことを起源とします。貞享二年（一六八五）に河川工事で堂島新地が整備されるとそこに移転し、享保十五年（一七三〇）以降は米相場を安定させるという名目で幕府公認の市場となりました。米市なので、実物の米俵を扱っていたと思われがちですが、実際には「米切手」という諸藩が発行した証券を競り落とす場でした。「米切手」を使えば、米を移動させる手間や保管場所の心配もなくなります。合理主義の大坂商人らしい発想です。堂島米市の優れたところは、現物取引（「正米商い」）のみならず、世界に先駆けて「帳合米商い」つまり、先物取引を行っていた点です。売り手は米や蔵がなくとも、買い手は十分な資金がなくとも、思惑次第で米を売り買いすることができ、相場の動きを予想できれば、大儲けも夢ではありませんでした。富豪にならんと米商人が熱狂する理由がわかります。堂島米市の相場は全国の米相場の基準となり、その日の取引情報は米飛脚や、旗振り通信によって瞬く間に各地へ伝達されました。

帳合米商いは、一年を春、夏、冬の三期に分けて行われ、朝の八時から昼休憩を挟んで、午後二時の「大引け」（一日の最後の売買）の頃には「鼎の沸くが如し」（「浪華の賑ひ」と、市場中が熱気と喧噪で煮えくり返ったと伝えられます。競は符丁（「ハンドサイン」）で行われ、手のひらを相手に見せれば「売り」、自分に向ければ「買い」で、指で数を示したといえます。扇子を拾う手は競のサインを暗示するほか、様々な意味が込められているかもしれません。

市場は幕府の弱体化とともに衰退し、明治二年（一八六九）に閉鎖されました。その後、堂島米会所として再興され、明治十一年（一八七八）五代友厚が大阪株式取引所を対岸の北浜に設立、現在は、株式会社大阪取引所となって堂島米市の精神を受け継いでいます。

編集後記

先日、施設名の「淀」の漢字を説明する際に困ってしまいました。とっさに「淀川の淀」と答えたのですが、地元の人でないと分からない単語で伝わりませんでした。調べると地名以外だと、「水のだよみ」（澱と同じ意味を持つそうです！）や豊臣秀吉の側室の浅井茶々の通称「淀殿」が有名どころのようです。でも一番は「さんずいに定める」というように、分解してしまうのが良いかもしれません。

■編集・発行：北区民センター・大淀コミュニティセンター・都市コミュニティ研究室

■指定管理者：一般財団法人大阪市コミュニティ協会

■発行月：7月・10月・1月・4月の各月下旬発行

北区民センター 〒530-8401 大阪市北区扇町2-1-27
✉ kitakumin-center@abelia.ocn.ne.jp

大淀コミュニティセンター 〒531-0074 大阪市北区本庄東3-8-2
✉ oyodo-comini@abelia.ocn.ne.jp

KITA NO MACHI NO NEWS LETTER

No.13 2024
夏・秋号

キタのまちのニュースレター



至福のピアノ時間を楽しむ

大淀コミュニティセンターで「大人のピアノ教室」を主宰する黒崎淳子先生に、「シニアにピアノを学んでいただく」ようになった
まなざし
眼差、ピアノへの情熱をお聞きました。

50代に入った頃、「自分は何も習い事をする機会がなかった」と
お思いの母親世代に、ピアノを弾く喜びを共有したいと強く思う
ようになりました。20年以上も前のことです。10名の募集に、
なんと100名の応募がありました。その様子を見たとき、私の「す
べてを捧げる」との思いに駆られました。

私自身がピアノに触れた最初は6歳の頃。田中美枝先生に師事
しました。ご主人もバイオリンを学ぶためフランスに留学した日
本最初の方で、夫婦で音楽に精通されていました。

私は美枝先生にピアノを学びました。とてもとても厳しい方で
した。その先駆者としての交流は、美枝先生のもとに集う多くの
音楽専門科家、大阪ゆかりの「大フィル」の音楽総監督、朝比奈隆
氏ご結婚の仲人であったことなど、枚挙にいとまがありません。

ピアノを学び続け、音大に進んだ私は、美枝先生のように「街の
ピアノの先生」を極めたいと決心しました。卒業後、その道をまい
進しました。その甲斐あって、100名ほどの教え子が音大に進むと
いう喜びにも恵まれました。

「大人のピアノ教室」に通ってくださる皆さんには、今も「ピアノ
を弾ける喜びを感じてもらえたら」の純粹な心根で接しています。
これは、自然と湧き上がってくる感情です。私ばかりではなく、
この教室のピアノ講師、その全員が、この感情を共有しています。

「大人のピアノ教室」の合言葉は、一年後を目指しましょう！
ステージで自分だけの時間がもらえる喜びは、何物にも代えが
たいからです。

ピアノを習いたいという思いは、いろんな立場の方の集まりを
生み、そこからコミュニティを芽生えさせます。お母さん、お父さ
ん、お子様とご一緒、お孫さんとご一緒のおばあちゃん、おじい
ちゃん、……関わりのない方たちがピアノの話だけでなく、それ
ぞれの話で盛り上がり楽しそうな交換の場を育みます。それが、
「大人のピアノ教室」の魅力、心の扉も開放されるというわけです。
水曜日の15分間、アナタも「さあ、ピアノに向かってみませんか！」



この書き物は、黒崎先生に直接取材の上、紙幅に許される範囲に
編集したものです。「大人のピアノ教室」詳細は、大淀コミュニテ
ィセンター（または、北区民センター）にお問い合わせください。

大人のピアノ教室

- 対 象：ピアノを弾いてみたい方、久しぶりに弾いてみたい方
- 場 所：大淀コミュニティセンター ホール
- 曜 日：水曜日（月3～4回）
- 時 間：9時45分～14時30分
※個人レッスンのため、空き時間にて相談
- お問合せ：大淀コミュニティセンター
TEL 06-6372-0213 / FAX 06-6371-0107

■バックナンバーの確認→「キタのまちのニュースレター ちょっとだけプラス」で検索！

ポケットパークと自転車置き場

北区民センターは北区役所の手前、左手にあります。この二つの建物の正面は、ポケットパークのような佇まいになっており、その北東角には絵になる時計台があり、北区の花「赤いバラ」が添えられています。

その周りは、管理が行き届いた植え込みになっており、道路・歩道に沿いつつ北側に回り込み、扇町公園に自然と誘ってくれます。

このポケットパーク、目立つことはないが楚々としており、いつも美しく、ふと「なぜなのか?」と思った。地域のボランティアの皆さんに支えられ、「手入れ」が行き届いていることは、無意識の中で意識していた。

北側から、あらためてよくよく見てみると、やはり「楚々とした美しさ」が目にとまる。なぜなんだろう? そんな時、植え込みの奥、ポケットパーク中央部にあたる自転車置き場に目が行った。その位置は、もちろん区役所と区民センター両方の「正面」ということになる。だから、それを再認識させられ、自転車置き場に目が行ったことに、ちょっとした驚きがあったし、なんとなく気恥ずかしくもあった。

……ポケットパークの楚々とした美しさは、自転車置き場の整理整頓にも関係しているんだ……

大阪メトロ、JR環状線の駅近、集客力のある商店街にも近い。さらに、キッズプラザ・放送局・扇町公園と、人を引き付ける魅力ある場所と場所。それらが折り重なるように集まる北東角のポケットパーク。

ポケットパークの存在は、すべての人が共有する「コモンとして」が建前だが、端っこの目立たない場所にありがちなポケットパークは、“荒れた空間”のまま、忘れ去られていることも珍しくない。ところが、ここのポケットパークは、楚々としていながら、ちゃんとした主張がある。

そのことは、この写真の、シッカリとした“お手製のプランター”にも感じられる。それは、自転車置き場の整理整頓をサポートするように、いつもちょこんと佇んでいる。



水都・大阪の華

キタのまちのニュースレター 編集室



「桜の通り抜け」でなじみ深い造幣局は明治新政府の一大事業。世界標準の通貨を「一刻も早く!」と、江戸から明治時代に入突した僅か3年後、1870(明治3)年8月に完成する。

現在の建物正面は国道1号に向く北側だが、当時は、すぐ東の大川と向き合っていた。物流は大阪湾口から、建設時も完成後も舟運が生命線の造幣局だった。今でも大川に建物が正対しているように見えるのは、その名残。立派な“正面玄関・跡”も残されている。

造幣局に沿い、北側に「都市計画道路」が整備されるのは、やっと昭和5(1930)年。それが現在の国道1号だ。“通り抜け”だけではない。知る人ぞ知る入館無料の「造幣博物館」には、歴代の流通コイン・数々の記念コイン・大判小判・金貨に銀貨・世界の珍しいコインなどの“現物”が展示され、誕生秘話も興味深い。

館の入り口すぐに「当時の建物模型」がある。そこには、大川と構内を結ぶ港「舟入」が見てとれ、「水の都」の賑わいが目に浮かぶ。



今現在も造幣局ご近所に「川の港」がある。ちょっと前まで、この港には「定期船」が行き来した。その光景は「水都・大阪」の代表格だった。

今この川筋では、新しい美術館・博物館・水辺のホテルなど、新時代のシンボルが続々と立ち上がる。それらの光景は、水都・大阪の華……造幣局に連なっている。



キタ歩き日本旅



福島県
の巻

全国約半数の道府県事務所が北区「大阪駅前ビル」に！旅の玄関口みたい！！それが「キタ歩き日本旅」です。



全国第二位を誇る収穫量「桃の出荷」福島県 HP より出典



福島県の記念コイン
(造幣局・造幣博物館にて)

極めることの美しさ

福島県猪苗代湖畔で生まれた野口英世は明治30(1897)年20歳で医師免許を取得したのち研究者として歩み、明治33(1900)年アメリカ留学。以後の業績は、まさに綺羅星のごとく。その大家が一時帰国した大正4(1915)年10月、大阪高等医学学校(現・大阪大学医学部)で講演し、大阪城を観光、それから箕面も楽しんだという記録がある。

中之島の「阪大」から足を伸ばし、大川沿いを上がり「天守閣再建前」の大阪城(再建は昭和6年)で日本初の本格的洋式近代工場「造幣局」を遠望、その後、梅田駅から電車に乗り箕面に向った(のではないかと想像すると、わが町大阪、さらに北区との親しみが湧き興味は尽きない。

その福島県の大阪事務所を訪ね驚いた。まず何より、オフィス空間が事務的ではなく自由闊達、「知ってもらうため」の情熱にあふれている。広くない空間だが、可能な限り「旬の物産」を紹介する工夫が映え、福島県の名所・名物に触れることができる。

対応してくださる受け答えの一つひとつが県事務所の堅苦しさとは無縁、ホスピタリティ感にあふれている。試しに「今の旬は何ですか?」と尋ねてみた。すると、すぐさま「桃の季節です!」と、快活な答えがこたえます。

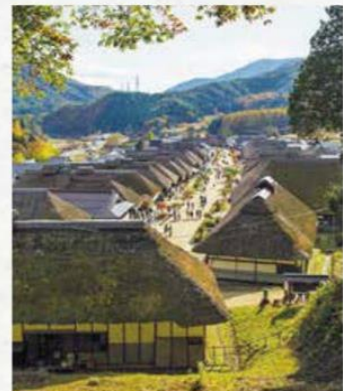
福島県は全国有数の桃の産地らしく、農業従事者の切磋琢磨で「品質・甘さに自信あり」とのことだ。試しに桃果汁100%の缶ジュースを購入、試飲した。うまい!……「現物」はいかほどの旨さなんだろう? 福島県事務所では、「現物の桃」を初秋まで「ここで販売します!」とのことだった。

美味に加え、風光明媚の魅力も忘れてはならない。福島県には、磐梯朝日・日光・尾瀬の「日本を代表する国立公園」が3つもある。さらに、会津鉄道沿線には、藁葺き屋根の家屋群が壮大なスケールで現存する歴史と文化の一大継承地「大内宿」がある。……福島県の広大無辺さは、数限りなく奥も深い。

自然・歴史・文化などのあらゆるものが、観光名目でリセットされ、集客す

ることを基準に更新・変更が加えられる新時代だが、福島県の新スローガンは「ひとつ、ひとつ、実現する ふくしま」と、お聞きした。そこに、時間の継承を大切に「極めることの美しさ」の響きを感じ、人の営みの強さ「未来気分のおすそ分け」もいただけた。

大阪市北区の大阪駅前第1ビル、その福島県事務所には、明解な「地域の主張」が込められている。



ふくしまの旅 観光フォトライブラリより出典
「大内宿紅葉」

福島県大阪事務所／福島県観光物産館 大阪サテライトショップ

北区梅田1-3-1-900 大阪駅前第1ビル9階 ☎06-6343-1721(開館 平日9時～17時30分 / 土日祝・年末年始は休み)

浪花百景歳時記

大阪大学総合学術博物館
研究支援推進員

波瀬山祥子

“SUN”と“三羽のからす”に隠された浪花“三大橋”の謎を解け！

第五十二景 「三大橋」 歌川国員画

大阪を代表する三大橋。堂々たる水都の景観ですが作品には謎があります。一つは三羽の明けがらすの意味、もう一つが大砲を先頭に難波橋を渡る軍隊の存在です。艶っぽい明けがらすと物騒な軍隊のコンビネーションに、どんな思いがこめられているのでしょうか。

道行ナビゲーター 大阪大学名誉教授 橋爪節也



生駒山から朝日が放射状に広がり、鳥が三羽、大川の上空を悠然と飛んでいます。左から、天満橋、天神橋、難波橋のいわゆる浪花三大橋をテーマにした、浪花百景シリーズ中、最もシンボリックな一枚です。

三大橋は幕府直轄の公儀橋で、大坂を南北につなぐ大動脈として経済や交通を支え、第八景「浪花橋夕涼」(キタのまちニュースレター 第五号掲載)など、四季折々、庶民にも親しまれてきました。中之島から南東を向く構図で、画面左側には大坂城が描かれ

ています。また、この絵の時代、中之島は難波橋とはつながらず、画面右下の緑の芦の群が実は中之島の東端でした。天満橋と天神橋の間の八軒屋浜には早朝から往来する人々の姿が、左奥には町会所などに設けられた火の見櫓がシルエットで表されています。

構図は大坂の名所案内記『浪花の賑ひ』(安政二年、一八八五刊行)などからとっていますが、朝日と鳥、そして難波橋の行列は国員のオリジナルです。中国の神話では太陽には三足鳥が棲むとされ、日本でも熊野の八咫鳥伝説があるように古くから太陽と鳥は深い結びつきがあります。また、熊野の護符に書いた約束を破ると「熊野で三羽の鳥が死に、嘘をついた本人は血を吐いて死ぬ」という伝説を踏まえ、男女のきびを描いた落語「三枚起請」は有名です。

一方、難波橋では、大砲を先頭に鉄砲足軽の部隊が行進しています。緑色の着物に赤い陣羽織の武士が続き、陣笠を被り馬に乗る者もいます。何やら穏やかならぬ光景です。大砲は、一八五五年にイギリスで開発されたアームストロング砲、あるいは一八五九年にフランスで開発された四斤山砲でしょう。「沢瀉紋」の旗がかかげられ、第二次長州征伐前夜、譜代の沼津藩五万石水野忠誠(一八三四～一八六六)の行列という説が提示されています。

色恋沙汰の物語を暗示する三羽の明けがらすと、幕末の世情を反映した幕府軍の行進。対極的な二つのモチーフを重ねたこの絵の謎をどのように解きますか？ ちなみに昭和七年(一九三二)の郷土研究「上方」第13号の表紙では、「三大橋」の鳥の構図をそのままにして、川岸を道頓堀の芝居町に変えてしゃれたパロディを演出しています。

猛暑まったたなかの今号にギリギリした日の出は暑苦しいかもしれませんが、秋には「浪花百景タベストリー展」(11月2～4日)とそれに関連した街歩きイベントも予定しておりますので、涼しくなったころ、皆様とお会いできることを楽しみにしております。

編集後記

今回の取材で「一芸と人生」ということに強く心を惹かれました。私自身は、勿論そんなこととは無縁ですが。一芸に寄り添った人生……「なんて素晴らしいんだろう！」と。なにより「一芸に真摯に向き合う」ことこそが、人を生き生きとさせ「生涯これ現役へと誘ってくれる。取材させていただいているあいだ、ずっとそのことが羨ましくって、羨ましくって。凡人かくあるべし、遅すぎることはない。私も音楽に向き合ってみようっと!!

■編集・発行：北区民センター・大淀コミュニティセンター・都市コミュニティ研究室

■指定管理者：一般財団法人大阪市コミュニティ協会

■発行 月：7月・10月・1月・4月の各月下旬発行

北区民センター 〒530-8401 大阪市北区扇町2-1-27
✉ kitakumin-center@abelia.ocn.ne.jp

大淀コミュニティセンター 〒531-0074 大阪市北区本庄東3-8-2
✉ oyodo-comini@abelia.ocn.ne.jp

KITA NO MACHI NO NEWS LETTER

No.14 2024
秋-冬号

キタのまちのニュースレター



「みんなで歌ってみませんか!」と、城千広先生。
(ピアノ担当の梅井容子さんと)

今年はベートーヴェン作曲の交響曲第9番が1824(文政7)年、オーストリアのウィーンで初めて演奏されてから200年目。さらに、その100年後1924(大正13)年1月26日、九州帝国大学フィルハーモニー会(現、九大フィル)により、第4楽章が日本人で初めて演奏されたという記念すべき年回りなんだそうです。

そんな第九を、合唱活動が盛んな旭区民センター・大ホールで「たまたま聴いた時の感動は忘れることができません。」そして今年、旭・北・鶴見・都島・城東が「5区で祝おう第九200年!」と銘打ち、来る12月8日(日)には、同じ旭区民センター・大ホールで発表会が開催される運びになっています。(主催:5区第九実行委員会/後援:大阪市コミュニティ協会)

この「5区」企画の中で、北区の講習担当をしてくださったのが城千広先生でした。私自身、北区民センター・大淀コミュニティセンターの両館の館長として、この講習の様子(全5回)をつぶさに拝見することになり、新しい感動、さらに私なりの夢が巻き起こりました。

それは……城先生と一緒に、「北区での音楽活動発展に貢献できたらなあ〜」ということでした。そして、城先生の「合唱教室」の構想を抱き始めています。

「夢を実現したい!」そんな願いを胸に、城先生にインタビューさせていただきました。

あなたも「第九」にトライしてみませんか!

——城先生が音楽に携わるきっかけは何ですか?

2歳からピアノを習い親も先生もピアノ科に進むものと思っていたようです。ところが、私自身ピアノは嫌で、中学の頃から歌の先生に習い始め、声楽科に進みました。大学卒業後すぐに結婚、子育て。ところが、偶然にも、子育て中に同級生と自転車ですれ違ったことがきっかけで音楽の世界へ戻ってきました。本当に良かったと思っています。

——生徒さんに向けて伝えたい事は何ですか?

はじめて歌うのは大変だと思います。でも、1年で終わりではなく2年目は1年目でできなかったこと、3年目では2年目でできなかったことをと、毎年パワーアップして歌っていく喜びは、とてもとても魅力です。大きな声を出し、みんなで歌うと心も体もパワーがみなぎります。気持ちが沈んでいても、そんなことぶっ飛ばせます。歌を歌っていつまでも若々しく笑顔でいましょう!

——第九の魅力や、ここに注目して聞いて欲しいこと。また、これから皆さんに伝えていきたいことはありますか?

「5区で祝おう第九200年!」は画期的な試みです。初心者もベテランも、みんなが楽しみにしています。今年12月8日(日)旭区民センターには、是非聴きにきてください。そして来年は、是非とも参加者としてステージで一緒に歌いましょう。「ステージで歌う!」本当に気持ちいいですよ♪

【注】城先生の「合唱教室」は構想中です。詳細内容は改めてお知らせします。



■バックナンバーの確認→「キタのまちのニュースレター ちょっとだけプラス」で検索!

フォトジェニックな大淀コミセン

大淀コミュニティセンターのモニュメント“大淀”は、説明書きにもありますが、一目見て「淀川の雄大な流れをイメージした」と感じるアート作品です。今年、この作品はちょうど40歳。それよりも先に完成の40余年を経た建物も、派手さを控えたデザインに優れ、正面外観と“大淀”の配置バランス、さらに建物内の動線にも様々な工夫が見られます。

大淀区が北区となったのは昭和64/平成元(1989)年。ずいぶん年月が流れましたから、大淀という名「そのものが歴史」になりました。ですから、大淀コミセンと“大淀”の風景は、北区の貴重な歴史物語なんだろうと感じています。

でも、築古物件には管理に工夫が必要です。大淀コミセンの場合、例えば建物回りの植栽が豊かである分、ひと手間・ふた手間考えなくてはなりません。しかも、今年は格別の高湿多湿。草木がビックリするくらい伸び盛りました。

年に何回も剪定管理する余裕はありません……写真はそのビフォー・アフターです。どうですか?“大淀”をバックに「記念写真!」そんなこともお似合いのフォトジェニックな大淀コミュニティセンターです。

スタッフ一同、古きよきものに息吹を吹きあて、運営・管理に努めています。ぜひ一度、大淀コミュニティセンターをご利用ください。お待ちしております。



魅力的な地下街の記憶

「行ってないのに・行ってきた!」1951(昭和26)年から60年間も親しまれたアリバイ横丁(阪神百貨店「ふるさと名産」)の記憶が鮮明にある。間口2間ほど、奥行き50センチあるかないか。物心ついた頃、大阪駅・梅田ターミナルエリアは、すでに「大動脈の地下通路」だった。最盛期の70年万博の時代には、41都道府県もの“ふるさとの逸品”が手に入ったらしい。スゴイ!

この姿、大阪を代表する地下街の“壮観”だったし、「お店のおばちゃん」も、ふるさとの風情みなぎり「何か?」、確かに、感じさせてくれた。



出典:「アリバイ横丁」〜これぞ大阪の名所!

「人を惹きつける人の力」を、「まちづくりに」と、昨今「何か」と人肌感が求められる時代になっている。そんな時、心の奥底に、この魅力的な地下街の記憶がフッと湧き上がることがある。ネット・ビジネスとは真逆、時代遅れなのかもしれないが、あの人肌感は、そこはかとなく未来的であったような気がするし、時代に打ち勝つ「何か」も秘められていたような気がする。

時代は移ろい、長い工事期間を経て、見違える立派さでこの地下通路が拡幅され、安心・安全のキレイな通りになったのは、つい最近のことだ。



2024年9月撮影:上の写真と同じ地下通路

歴史や文化・まちづくり的試み・地域探訪……などなど……「まち歩き感覚」のコラムのページです



キタ歩き日本旅



岩手県
の巻

全国約半数の道府県事務所が北区「大阪駅前ビル」に！旅の玄関口みたい！！それが「キタ歩き日本旅」です。



※1 出展：復興釜石新聞アーカイブ。オリジナル・キャプションは「小雨模様の中、釜石港に到着したガントリークレーン＝17日」となっています。

全国各地の県事務所に会える大阪駅前ビル、今回は岩手県です。さっそく同事務所・次長の武藤健一さんに取材趣旨を告げると開口一番、「東日本大震災で受けた大阪への恩義」について語られました。その「語り」は熱く、少々驚いたのですが、それは「大阪愛」のようでもあり、とてもうれしい響きがありました。

教えていただいた、その「響き」の詳細を2017年8月29日付け（※1）復興釜石新聞アーカイブ（紙ベースのリアル版は同年8月23日発行 第615号）で確かめてみました。（以下、紙面の一部を転載）

——復興支援のため、大阪府から本県へ無償譲渡された大型荷役機械ガントリークレーンが17日、釜石港に到着した。県内の港では初の導入。現在、同港にあるクレーンの3倍の荷役能力があり、貨物取扱量の飛躍的な増大に期待がかかる。岸壁への設置工事や夜間用照明施設の整備、試運転などを経て、来月下旬の稼働開始を目指す。（この間・省略）新品価格は約10億円。堺泉北港には、阪神淡路大震災で被災したのを受けて1996年度に3基設置されたが、現在運用していない1基が本県に贈られた。（以下省略）

武藤さんによれば、「このクレーンは釜石だけではなく、岩手県全体の復興にも大活躍しています」とのことだった。そんな話をお聞きして、大阪人としてうれしくないはずがありません。ところが、岩手県から着任され、間もないらしい武藤さんから、こんな質問がありました。

武藤さん：大阪駅北側が大規模に整備され、大きな話題になっています。元の中央郵便局も立派なビルになり、話題性豊かな地下店舗街も人気です。……仕事柄とても興味があるので勉強させてもらっていますが……じつは、ドーチカ（堂島地下街）に岩手県と青森県のアンテナショップがあり、これらの話題に押され、人目につかなくなるのではないかと、とても心配しています。

どのように返答すべきか困りました。が、武藤さんの大阪愛は深く、ついつい問わず語りでこんなやりとりになりました。

——大阪の地下街は「名所名物的な存在感」が際立ちます。東京や福岡の「それ」とは、ここが違います。つまり、地下通路に人格を持たせることに成功したのです。ドーチカは、通りの先の中之島方面。堂島・堂島浜（いづれも二丁目）でも地上のアップデートが盛んで、これらに結ばれた「ドーチカ通り」を、各県文化の「お店」で「通り化」すれば、とても未来的な観光スポットになるのかも？

武藤さん：各県文化の「お店」で「ドーチカ通り」ともなれば、古来、日本全国の物流で栄えた中之島や堂島の歴史や文化、ひいては大阪そのものの「ものがたり」ですね。

——これぞ岩手県という物語的な名品は何でしょう？それはアンテナショップで手にすることは可能ですか？

武藤さん：例えば、岩手県を代表する有名な工芸品があります。日を改め、アンテナショップでその手触り感を確かめてみませんか！

……ということで、後日アンテナショップに同行してもらうことになりました。それは、江戸期・中之島の蔵屋敷で名品に出会う「（※2）そのもの」のような感覚で、今に続く岩手県と北区の物語のようでもありました。



※2 武藤さんの手に名品「南部鉄器」が。茶器として蔵内・上方とのつながりも深い。

北東北三県大阪合同事務所 ☎06-6341-7900 / 岩手県大阪事務所 直通☎06-6341-3258
北区梅田1-3-1-900 大阪駅前第1ビル9階（開館 平日9時～17時/土日祝・年末年始は休み）

浪花百景歳時記

大阪大学総合学術博物館
研究支援推進員

波瀬山祥子

もしも大阪に東照宮があったら……

第五十五章 「川崎御宮」 歌川国員画

大阪人の愛する偉人といえば太閤さんこと豊臣秀吉である。川崎の東照宮も明治六年に廃社となり、明治十三年に中之島に豊国神社の別社が創立された。万城目学の小説『プリンセス・トヨトミ』の舞台、中央区空堀商店は秀吉の馬印である千成瓢箪を飾っている。しかし夏の陣の後、街を再建して天下の台所の礎を築いたのは松平忠明であり徳川氏であった。それを偲ばせるのがこの図である。

道行ナビゲーター 大阪大学名誉教授 橋爪節也



徳川家康を祀る東照宮といえば、日光東照宮（栃木県）や久能山東照宮（静岡県）、金地院東照宮（京都市）が有名ですが、大阪市北区にも東照宮が存在しました。今回ご紹介する「川崎御宮」こと川崎東照宮です。本社は、江戸時代から明治時代初期まで、西成郡川崎村（現在の造幣局と大阪市立滝川小学校の地）にありました。

時元和元年（一六一五）、大坂夏の陣の後、家康の外孫で大坂城主となった松平忠明が、家康の一周忌を祈念して創建したものです。東照宮が立つ以前、ここには豊臣秀吉の弟であり茶人の織田有楽斎の邸宅がありました。有楽斎三井といわれる「花の井」「菊の井」「梅の井」の名水が湧き、家康はこの茶席に出掛けるのを好んだと伝わります。湧水は、東照宮にも引き継がれ築山・林泉を整え、観音堂・薬師堂を配した美しい景勝地となりました。また、京都建仁寺塔頭の九昌院より僧三江紹益が迎えられ境内には別当寺九昌院が建立され後に建國寺と改称されました。

平日は厳重に門戸を閉ざしていましたが、例年四月十七日に開催される「権現祭り」の際は衆人參詣を許し、大坂市中は敵灯を点じ「浪花随一の紋目」として賑わいを見せました。天保八年（一八三七）大塩平八郎の乱で焼失するも復興され、本図は、その復興後の風光明媚な様子を伝えています。手前に立つのはタンチョウヅルとクロヅルです。現在、寺社にいくと鶴の銅像を目にしますが、実物の鶴を飼う寺社も多かったそうです。背後には川が流れ、橋を渡った対岸には創建時に忠明が献納した石灯籠が置かれています。屈曲する岩間にはツツジの花が咲いています。画家国員は四月の祭礼に訪れ、春の朗らかな景色を描いたのでしょう。

しかし、復興もつかの間、慶応四年（一八六八）戊辰戦争が勃発すると、境内には長州藩の本営が置かれ戦乱に巻き込まれます。明治に改元されると、敷地は造幣寮（現・造幣局）になり、明治六年廃社となりました。現在、石灯籠と鳳凰庫は大坂天満宮境内に移され保管されています。また、下三番村（現・北区中津付近）にあった東光院（別称・萩の寺）に、東照宮本地堂が引き取られ「あごなし地蔵堂」として現存しています。東光院は、大正二年（一九一三）豊中市に移転し、権現まつりは「萩まつり道了祭」として承継されています。

今夏公開された映画「もしも徳川家康が総理大臣になったら」は、AI技術で歴史上の偉人を復活させ最強内閣を作るという奇想天外なストーリーですが、もしも大阪に川崎東照宮が残っていたら、現在どんな景色になっていたでしょう。十一月四日に開催する浪花百景タペストリー展の「現場紀行」では船に乗りこの付近を周遊する予定です。徳川家の縁を感じながら大阪の秋を探索しましょう。

編集後記

ステージの上で歌ったり舞ったり。そんな経験は皆無に等しい「私」ですが、今回取り上げた「合唱」も、北区民センターと大淀コミュニティセンターで開催されている「フラ教室」でも、ステージ上で「発表する！」取り組みが、分け隔てなく華やかに繰り広げられます。その様子は会館運営に携わる者にも歓びを与えてくれます。感謝！
【お詫び】前号に誤記がありました。お詫びして訂正いたします。誤記箇所、P1右上「×⇒No.12」。正しくは『No.13』でした。

■編集・発行：北区民センター・大淀コミュニティセンター・都市コミュニティ研究室

■指定管理者：一般財団法人大阪市コミュニティ協会

■発行 月：7月・10月・1月・4月の各月下旬発行

北区民センター 〒530-8401 大阪市北区扇町2-1-27
✉ kitakumin-center@abelia.ocn.ne.jp

大淀コミュニティセンター 〒531-0074 大阪市北区本庄東3-8-2
✉ oyodo-comini@abelia.ocn.ne.jp

KITA NO MACHI NO NEWS LETTER

No.15 2024
冬-春号



造幣局前・大川を行く「現場紀行」。その、幕末スグの創業式は明治4年4月4日。当時は大川が大動脈、だから今も建物正面はこっち向き！

浪花百景タペストリー展 & 現場紀行

北区民センター・大淀コミュニティセンターでは、歴史と文化に触れる「浪花百景タペストリー展」に取り組んでいます。今号では、そこから発展した今年初の試み「現場紀行」についてご案内します。

北区の風景・大阪の表情

いつもの散歩コースのルートからそれて歩いてみるとそれがそのまま街歩き感覚になり、思いがけない景色に出会うことが珍しくありません。

それは、ハッとした角度から差し込んできた朝日や夕日、新規開店準備のさらっぴん。その逆……無くなってしまった個人店。また、出来たてほやほやのマンション、意外な場所の名所旧跡、長屋の小道のインバウンド旅客、等々……多種多様です。

この街歩き感覚に、さらに探求心というスパイスを効かせると、「小さな旅」へと育ちます。その効果的なスパイスのひとつに「文化と歴史が積層された風景」があります。ただし、先の大戦で戦火にまみえた大阪は、一面一体ごとくが爆撃され焼け野原となり、また、歴史的に地震や風水害の天変地異にさらされることも多かったので、よっぽど注視しないと記憶されてきた風景には出会えません。

例えば、現在の大阪城天守閣は、大阪市民らの浄財により昭和6(1931)年に「新築」された今年「満94歳」の「風景」ですが、もっともっと古くから、文化と歴史が積層する「だれもが認めるニッポンの風景・大阪の代表格」です。

その中でも、天満橋上流すぐの北区側から、大川にかかる人道橋・川崎橋を歩けば、大川の風景と大阪城の遠望が素晴らしく「大阪の表情」が輝いて見えます。その輝きは、悠久の歴史につながり、「あの人・この人」とも出会えます。そんなことと遭遇し、今この時を共有するのが現場紀行です。

浪花百景「現場紀行」

「大阪は歴史に疎く、文化的な表情に欠ける」と喧伝され、自らそれを甘んじて受け入れる土壌もありますが、街歩きで景色に出会い「小さな旅」を育てれば、自分なりの「大阪の表情」が発見できます。

この「小さな旅」への誘いは、4年前に出会った江戸期幕末の錦絵コレクション、浪花百景がきっかけで、大阪大学総合学術博物館の先生方との出会いから始まりました。

浪花百景は「写真が無い時代、大坂の観光案内図絵」みたいな役割もあり、その時代の「風景・生活・文化」の記録でもあります。この興味に対し、先生方は格別の指導をしてくださいました。その記憶と記録は、本紙4ページで「浪花百景歳時記」として毎回オリジナルの文を起こし、連載していただいています。

さらに、この原画データを高精細で復元、耐候性のある生地に16倍もの大きさに引き伸ばし「浪花百景タペストリー」とし、指に触れ手触りしてもビクともしない『浪花百景タペストリー展』として楽しんでいただき、さらにこの際には、とても親しみやすいワークショップも同時開催しています。「文化と歴史が積層された風景」……それらを学ぶことのできる無料のティーチングプランです。

浪花百景タペストリー展とワークショップは毎年一度、今年は11月の開催で第5回目の区切りを迎えます。そこで、昨年の第4回目の開催ではタペストリー展で学び、街に飛び出し現場紀行に挑戦してみることにしました。特別に小型船をチャーターし浪花百景で描かれている「現場」を旅するプランです。

北区の大川・中之島周辺は現場紀行にうってつけです。なぜなら、浪花百景に描かれているポイントが多いのです。「その時、歴史が動いた」現場も数多く魅力は尽きません。



ワークショップの様子

《2ページ左欄に続く》

■バックナンバーの確認→「キタのまちのニュースレター ちょっとだけプラス」で検索！

《1ページから続く》

現場紀行では、街をブラブラする“名番組”に何度も協力されている大阪大学総合学術博物館・副館長 船越幹央先生に指南役をお願いしました。参加者一同、その名調子に時が過ぎるのも忘れ、大満足の様子でした。

現場紀行は未来の入り口

旅と観光は似て非なるものがあります。「旅業」なる言葉は存在しませんが「観光業」という言葉は立派に存在します。観光産業はありますが、もちろん旅産業なる表現は聞いたことがありません。

ところが、情報テクノロジーの進化は、交通手段や宿泊予約を劇的にセルフ化させ、それに伴い、観光を限りなく個人ベースの楽しみに仕立て直しました。皮肉なことです、この進化で、「小さな旅」が見直され、この包容力に満ちた街をつくるのが、底堅く安定的な観光産業のキーになっています。

パリと大阪を比較するつもりはありませんが、そう遠くない昔、北区中之島をパリのシテ島になぞらえ、もう少し大きな話では「大阪は花の都である」と賞賛されていたことを、いくつかの出版物で何度も見た記憶があります。そして今、パリの「小さな旅」はとても活発ですが、大阪の「小さな旅」は大したことがありません。

先生方も私たちも観光業者ではなく、現場紀行は街歩きの延長線上の「小さな旅」に過ぎません。……船上から見た大阪の水辺では新しいビルが何本も建ち、その中には新しいホテルもいくつかありました。それらは、海外資本のネットワークが多く観光産業の先進国は「小さな旅の効用を経験済み」……狙ってるなど感心しました。

浪花百景には、大阪に繁栄をもたらした大きな存在「全国諸藩の蔵屋敷」が描かれていることが多く、この川筋が“その現場”でした。戦後は、ビジネス街としてサラリーマンやOLらの独占地みたいなのところがありましたが、もはや「サラリーマン・OL」という言葉そのものが流通していません。

未来に通じる「観光産業の種」が北区にゴロゴロ？ そんなことを感じる現場紀行となりました。



左に川崎橋。向こうに大阪城。その右スグ、新しい外資系ホテル。

大淀 & 北区民センター便り

大淀コミセンで 語り継がれていること

それはこんな内容です。

「この会館の1階ホールは、ひょっとしたら大阪で一番使いやすいホールではないか？」という話です。その理由は、上下2枚の「この写真」に込められています。



上の写真はホール内側から見た「外に通じる物品搬入用」の両開き扉。下の写真は、その扉を外側から撮った写真で、手前の白線は扉スグに位置する駐車場のモノです。(ホール利用の主催者に無料貸し出し可。詳細はお問合せください。) ちなみに、このスタッフの身長は175cmです。

……そうなんです……少し大げさな表現になりますが、大淀コミセンの1階ホールは「駐車場と地続き」なので、大道具・小道具を必要とする主催者には、とても強い味方。「この会館の1階ホールは、ひょっとしたら大阪で一番使いやすいホールではないか」と語り継がれています。

さらに、舞台袖から(演者などの控室にピッタリの)和室への動線に独立性があり、裏方さんが少なくても、舞台と客席の仕切りが容易で「当日運営が少人数でもなんとかなる」と、人気です。

大淀コミセンは開館から40年余が経過し、新しい施設ではありませんが、その分、昭和レトロの味わいが感じられ、「なんとなくホッとする」……こんなことも人気の理由なのかもしれません。

詳しくは、「大淀コミュニティセンター」を検索の上ご確認ください。もちろん見学・利用の相談も可能です。



キタ歩き日本旅

秋田県
の巻

全国約半数の道府県事務所が北区「大阪駅前ビル」に！旅の玄関口みたい！！それが「キタ歩き日本旅」です。



秋田県横手市の「かまくら」(写真提供：秋田県大阪事務所)

——秋田県大阪事務所にチームリーダーの鎌田さんを訪ね、こう切り出しました。ずいぶん昔の話で恐縮ですが『たこやき (1998 年・講談社刊)』という名著があり、大阪のコナモノ文化を全国区に広め、その後、横手のやきそばなんかの普及にも尽力、大阪との交流を進めた女史がいます。

そのご縁か？秋田県横手市と大阪市の交流は深く、天神橋 2 丁目商店街では「まるっと観光物産展」を、大阪城 太陽の広場公園では「横手の雪まつり」を開催してきました。さらに今年は、大阪・関西万博で、姫路市とともに『水に感じる日本の神性 (しんせい) さ』をテーマに共同ブースをつくり上げ、『かまくら』を披露させていただく予定です。

——万博で『かまくら』とは知りませんでした。秋田の方の県民性ってどんな感じですか？

大阪もそうでしょうが、秋田の魅力もホスピタリティ豊かな人がまずイメージできます。ビックリするような伝統ですが、明治 29 年 (1896) 秋、秋田県人同志が必要を感じ県人会組織を創立、以来 130 年ほどの歴史があります。その名を近畿秋田県人会と言います。

——近畿の「畿」は「都」の意味、「近畿」は都に近いという歴史的な意味合いです。その点で近畿秋田県人会の名に貴禄を感じます。

貴禄と言うほどではありませんが県人会の会員数はまだまだ多く、この県事務所も県人会の皆様といっしょになって大阪で頑張っています。私は 7 年目の大阪務めですが、秋田人の気風は、大阪人と相通じるようなところがあると感じています。ぜひ、県人会の皆様も取材してください！

——大阪人のゆるさが一緒になれば、秋田であり横手の『か

まくら』が唯一無二のホスピタリティを発揮できるかもしれません。

本当にそう願っています。伝統といえば……秋田県大阪事務所の歴史も古く「連絡事務所」は当時の北区絹笠町 50 に開設しています。先の東京オリンピックのすぐあと昭和 40 年 (1965) です。

——かつて堂島川と曾根崎川 (蜷川) が合流していた「堂島」の東端、大江橋北詰の堂島ビルディング内ですね。

この駅前第 1 ビルには開業年すぐ、先の大阪万博と同じ昭和 45 年 (1970) の入居です。そんなこともあり、大阪の空気感は私たちと一体です。この事務所のフロアとは別室になりますが、同じ階に県人会事務所の皆さんもおられます。ぜひ取材し、万博の『かまくら』も体験しにみてください。

——ということで、後日、県人会の皆様を取材させていただくことになりました。



「なまはげ」とともに！左から近畿秋田県人会の須藤さん、佐藤さん。県事務所の鎌田さん。

北東北三県大阪合同事務所 ☎06-6341-7900 / 秋田県大阪事務所 直通☎06-6341-7897
北区梅田 1-3-1-900 大阪駅前第 1 ビル 9 階 (開所 平日 9 時～17 時 45 分 / 土日祝・年末年始は休み)

浪花百景歳時記

大阪大学総合芸術博物館
研究支援推進員

波瀬山祥子

酔っ払い連中の着物をよく見ると……

第四景 「さくらの宮景」 歌川国員画

登場人物が絶好調!!の作品がこれ。その日の浴衣にその日の手ぬぐい。花の輪郭に「王」の字は「桜花」とも読めます。丁番のお兄さんがバンドリターでしようか。チョップ奏法が決まったエレキギターみたいなビビビビビと三味線が響きます。左右対称の構図と人物に比して建物(屋形船)が大きいのは国員の特徴です。

道行ナビゲーター 大阪大学名誉教授 橋爪節也



桜の名所である桜宮神社周辺を、大川右岸(現・北区側)の船中から捉えます。川向こうにお宮の鳥居が見え、土手に満開の桜、川沿いに花見の小屋が並び、屋形船でも大勢の人が花見を楽しんでいます。夕方に近いのか背後の生駒山の稜線にそつた空は金色に染まっています。船で三味線を弾く男の目は据わり、女の目元は赤らみ、ご馳走も平らげて宴もたけなわの様子です。提灯の短冊は風に揺れ、心地よい春風が吹いています。前々号で紹介した「三大橋」

の大砲を運ぶ物々しい行列からは一転して、春を謳歌する享樂的な庶民の暮らしぶりが見て取れます。ここを舞台とする落語「百年目」は、普段堅物な番頭が、派手な格好をして船で桜宮の花見をしていたところを、店の旦那に見つかった青ざめるという話です。

環状線の駅名としても馴染み深い桜宮神社は、元々旧大和川堤の桜野というところにありましたが、水害などで何度か遷座し、現在の都島区中野町に鎮座したのは宝暦六年(一七五六)のことでした。旧地の名にちなみ境内のほとりに数百株の桜を植えたところ、その名の通り「桜宮」となったと伝わります。『淀川兩岸一覽』(二八一年刊)には、「水辺より馬場の堤に至るまで一円の桜にして、晩春の花の盛には雲と見、雪と疑ふ風景なり」と圧巻の様子を伝えてあります。また付近は、茶の湯に適した良水が採れる場所として知られ、文人画家の田能村直入がそれを顕彰して建てた「青湾の碑」が現存します。江戸時代、桜宮付近の淀川の水は貴重な飲料水として市民の生活を支え、近代には、安定した水を供給するため桜宮水源池が設けられました。

絵に話を戻しましょう。この図は毎年恒例となった「浪花百景タペストリー展」で観覧者から人気が高く、見どころはなんと言っても船中で繰り広げられる飲めや歌えやの饗宴シーンです。左下には三味線のほかに横笛を吹く男の姿も描かれています。ここで注目されるのが、桜に「王」と書かれた三人の着物です。これは、歌舞伎役者の品屋連中「花王連」の紋と近いという指摘があります。

花王連は格式高い観劇集団の一つで、歌舞伎の顔見世狂言で「手打ち」という最も重要な儀礼を執り行い、揃いの衣装を着て熱狂的に推しの役者を支援しました。ここでは花王連がオフ会を催し、歌舞伎のお囃子を自前で演奏して盛り上がっているのかもしれない。

編集後記

大淀コミセンへの交通便は大阪メトロ「天六駅」からが一般的ですが、広域からは大阪駅前発のバス便で「天八バス停」下車がとても便利。バス本数が(早朝から夜遅くまで)とても多く乗車時間も10分足らず。ホントに意外なほど便利です。また「天八バス停」から大淀コミセンまでは歩・2分ほど。大淀コミセンまでお気軽にお問い合わせください。

■編集・発行：北区民センター・大淀コミュニティセンター・都市コミュニティ研究室

■指定管理者：一般財団法人大阪市コミュニティ協会

■発行 月：7月・10月・1月・4月の各月下旬発行

北区民センター 〒530-8401 大阪市北区扇町2-1-27
✉ kitakumin-center@abelia.ocn.ne.jp

大淀コミュニティセンター 〒531-0074 大阪市北区本庄東3-8-2
✉ oyodo-comini@abelia.ocn.ne.jp

1. 事業名	扇町マナビバ マナビバ・フラ・カンファレンス<環境循環型コミュニティを表現し楽しむ>
2. 事業内容	フラの学びを高めあうことにより地域コミュニティがより豊かになることを目的とした、“フラでつながるコミュニティイベント”を3月30日に北区民センターで実施した。 イベントは二部制で実施し、第一部ではハワイアンスタイルのオープニングに始まり、子どもを中心としたフラのステージ。第二部ではテーマに沿ったハワイアンソングの曲を紹介しながら、生バンドの演奏でのフラダンス。フラを見たことがない方から踊れる方まで、理解を深めることができるステージを企画した。
3. 実施日 実施場所	○令和7年3月30日（日） 北区民センター ホール
4. 来場人数	延べ約300名
5. 出演	□ハーラウ オ リリノエ □ハラウ オ カホークー オーリノリノ □ハラウ フラ オ カモク オピオ オカラニ □ハラウ フラ オ メハナ
6. 次年度の 展望	今年度は前年度よりも来場人数が多く、さらににぎやかなものとなった。たくさんの来場者がある中で、次年度は参加者がもっとフラの世界に入り込めるよう「体験・体感」できる仕組みをイベントに組み込みたいと考えている。また、イベントが地域の新しいつながりの場となるよう、次年度はチラシ・ポスターを活用した広報面においてもさらに力を入れていくことを検討している。

添付資料⑪ 当日写真

<マナビバ・フラ・カンファレンス（3月30日@北区民センター・ホール）>



1. 事業名	浪花百景展示・講演会＜大公園の次世代を考える「扇町マナビバ」フォーラム事業＞
2. 事業内容	大阪の昔の風景を描いた「浪花百景」60点(景)を大判タペストリーにし、今と昔の大阪を図版で実感。 橋爪節也大阪大学院文学研究科教授と大阪大学総合学術博物館副館長の船越幹央と大阪大学総合学術博物館の波瀬山祥子さんによるワークショップも開催した。
3. 実施日 実施場所	○令和7年11月2日(土)～5日(日) 北区民センター第1・2会議室
4. 来場人数	延べ約60名
5. 協力	・大阪大学教授 橋爪節也氏 ・大阪大学総合学術博物館 副館長 船越幹央 ・大阪大学総合学術博物館 波瀬山祥子氏
6. 次年度の展望	江戸後期の大阪を描いた図版集「浪花百景」の原画(100枚の風景錦絵)を、高精度で大判のタペストリーに施し毎年度ごとに20点(景)程度追加して「企画展示」を実施した。幕末の大坂の町の様子や庶民の姿が生き生きと描かれ、後年の開発と戦災で姿を消した川や橋も多数見られる図版を、来年度は10点(景)を追加。大阪の今昔を知るきっかけの一環とし江戸時代の「古き良き大坂」にタイムスリップしてもらいながら、商都浪花の賑わいとそこで暮らす市井の人々の営みを一瞬の「景」でとらえた『浪花百景』の世界を読み解き、見る人が『今のまちに求められる視点』を検証もらえる糧にしよう。 また、今年度は企画展示以外にも大淀コミュニティセンターの自主事業である「文化のつどい」での展示も行い、イベントに足を運んだ方が気軽にタペストリーを見られるようにした。次年度は来場者が「今」と「昔」を見比べながらタペストリーを閲覧できるような展示方法の再検討や、施設に足を運んだより多くの方に企画に参加して頂けるように展示期間を拡充するなど、企画内容を精査していく。

添付資料⑫ 当日写真

＜浪花百景展示・ワークショップ＞



2024 年

浪花百景 タペストリー展 & 現場紀行

会場:北区民センター 第1・2会議室 /大阪メトロ・扇町駅, JR 環状線・天満駅 いずれもスグ(北区役所・東隣)

《タペストリー展①～③(自由閲覧)および、ワークショップ(下記時刻により開催)は参加無料です》

主催:(一財)大阪市コミュニティ協会・北区民センター 協力:大阪大学総合学術博物館

タペストリー展

①初日⇒11/2(土) 11時～16時

②中日⇒11/3(日)10時～16時 ■ワークショップ 13時～14時半⇒特別講師:大阪大学名誉教授
橋爪節也さん / 同・総合学術博物館 研究支援推進員 波瀬山祥子さん

③最終日⇒11/4(月)10時～15時 ■ワークショップ 10時半～11時半⇒同:大阪大学総合学術博物館
副館長 船越幹央さん

現場紀行:11/4(月)開催・有料【詳細ウラ面】



第1景 錦城の馬場



第54景 あみ鳴風景



第71景 大江より鍋島風景

▶ はじめの第一歩・・・「16倍」との出会い

江戸期幕末に描かれた浪花百景のオリジナル原寸は約 A-4 サイズ。これを高精細のまま16倍の A-0 サイズにまで引き伸ばし、眺めつくすと「何か新しい発見」があるのではないか。また、多くの人らと、この「大判」を眺めて共有すれば、きっと楽しいはず!?

▶ で、やってみた!

本当に新発見があり、楽しかった!! 今年はその第4回目です。なんとすでに60景もの「新しい発見をもたらすタペストリー」が揃いました!



▶ 今年からの新趣向 浪花百景 現場紀行

主催: 大阪大学総合学術博物館 / (一財)大阪市コミュニティ協会 協力: 大阪水上バス

タペストリー展で学んだら外に飛び出し 学んだ“時空”を学びなおす
タペストリー展で学び⇒学ぶことで楽しみが増す『現場紀行』

浪花百景 現場紀行には 特別講師 3 人の先生が同行!



◎コース概要

下記集合場所⇒**11/4(月) 大阪造幣局・正面前 集合 12:45**⇒OAP 港・大阪水上バスに乗船～源八橋、「青湾」付近を回航・・・第 52 景 三大橋・第 71 景 大江ばしより鋼しま風景・第 54 景 あみ鳴風景・などなど・・・約 10 景を船旅～大阪城港・下船⇒大阪城天守閣前・解散(16 時頃)

注: 大阪城港から、天守閣まで約 3 km の上り坂を歩きます。天守閣前ではヒミツのサプライズが！
(別途資料、乗船時配布)

◎「現場紀行」の申込みは

—現場紀行には、大阪水上バス貸切乗船代として、お一人・3 千円が必要です。

—参加希望者は

a.「タペストリー展・会場」でのみ、受付けます。

b. **11/3(日)ワークショップ後【15 名】 11/4(月)ワークショップ後【10 名】⇒最大 25 名・限定受付**
(応募定員を超えた場合、それぞれの日に、その場で抽選・決定します)

c. 貸切乗船代 3 千円は「受付完了・引き換え」です。(現金をご準備ください。)

【注】貸切乗船の為、キャンセル等、お申込み以後の返金には応じかねます。この点、事前承諾の上、お申し込みください。

◎選にもれた場合

—選にもれても、「造幣博物館・入館～OAP 港出港時まで」は、同行可能！ プチ・現場紀行が楽しめます。(この場合、参加費・無料)

問合せ先: タペストリー展・会場【北区民センター】Tel 06-6315-1500
コンテンツ・内容について【e-mail】lee-y@osakacommunity.jp (コミ協: 担当・李)

感想
通りかかっただけですが、寄ってみたいなと思いました。このような景色だった大阪に興味をもちました。
陶版画のようにタペストリーにすることでより大きく手身近に触れる機会に感激しました！！
手作り感いっぱいの展示に親しみがわき、拡大された百景は細部まで確認ができて楽しめます。
原寸だと見辛い細部がとてみ見やすい。色がはっきり出ているよい。
大変面白かった
百景の一覧など全体像がわかるものがほしい
各景の解説にそれぞれの図の「謎解き」も付け加えてもらえたらもっと楽しい展示になると思います。
説明文が見にくいところがあり改善していただければと思った。現在の地図があったのでわかりやすかった。タペストリーの大きさになると見やすいし迫力があつた。
知っているところもあつておもしろかったです。
説明書が小さくて見て読みにくかったです。先生方の意見が聞けて楽しかったです。
北瓢亭のサルを見る事ができました。姫松の人物が面白かったです。
50景しかない
昔の大阪がしのばれて良かった。迫力があつてよかった。
知っているところばかりです